

1 はじめに

極めて多数の人命と莫大な資産が一瞬のうちに失われるという未曾有の災害から1年が経ちました。東日本大震災により犠牲になられた方々に対しまして、あらためて御冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様に対しまして心よりお見舞い申し上げます。

さて、この会報は校友会活動の状況を少しでもお伝えすることができればと、平成22年3月に第1号を作成し、今回が3号目となりました。少ない紙面でお伝えできることにも限りがありますが、御容赦をお願いいたします。

本校友会は昭和40年に発足して以来、今年で46年目になりました。会員551名からなる埼玉県の土木技術者の中心組織のひとつです。

しかしながら、最近是新入会員が少なく、一例を挙げれば埼玉県職員の平成23年度新入会員は2名だけです。会員の皆様には、土木を目指す学生を身近なところから勧誘し、官民を問わず県内に就職するよう働きかけていただきたいと思います。

ところで、大変うれしいニュースがありました。栗原稔名誉顧問が、昨年秋の叙勲に際し、旭日中綬章を受章されました。栗原名誉顧問のますますの御健康と御活躍をお祈り申し上げます。

2 平成24年度の活動状況

○大学本部関係

6月22日に日本大学理工学部校友会通常総会が開催されました。

○幹事会 平成24年7月18日(水) (於) 埼玉会館

幹事さんにお集まりいただき、平成24年度の名簿作成と会費の徴収をお願いすると共に、平成23年度事業計画と平成24年度事業計画(案)について説明いたしました。出席者は26名でした。

○役員会・幹事会 平成24年9月20日(木) (於) 埼玉会館

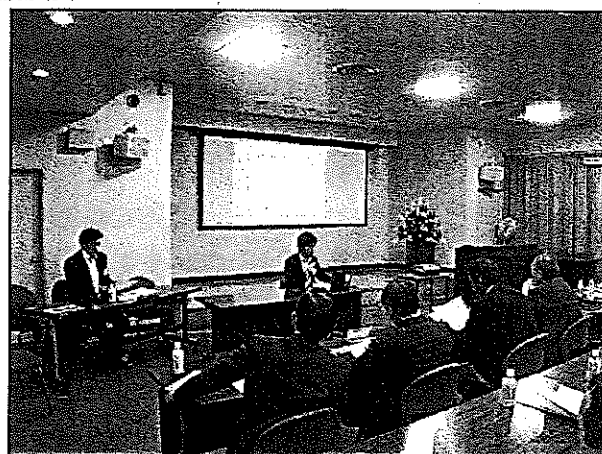
役員と幹事さんにお集まりいただき、平成24年の総会議案(事業計画、予算、決算及び役員の改選について)を御審議いただきました。本会の活性化のため、総会への出欠返信欄を活用し、広く会員からアイデアをもらうべきとの意見をいただきました。出席者は27名でした。

○平成24年度総会及び講演会 平成24年10月27日(土) (於) 埼玉会館

総会



講演会



御来賓として理工学部から関 文夫先生、生産工学部から伊藤義也先生、工学部から堀井雅史先生、工学部校友会の手塚公敏会長、日本大学校友会埼玉県支部の大澤慶吉様をお招きし、母校の状況などにも触れていただいた御挨拶を頂戴いたしました。総会は54名の会員に出席いただき、23年度の事業報告と決算、24年度の事業計画と予算及び役員の改選を審議し、原案のとおり承認されました。

総会後は県河川砂防課の高橋宏成さんから「河川事業における事後評価」について、御講演していただきました。高橋さんは平成20年に新規採用された期待の若手技術職員です。諸先輩方から厳しくも温かい質

間を数多くいただき、盛況な講演会となりました。

講演内容は、総合治水対策特定河川事業・一級河川青毛堀川花崎多目的遊水池整備事業の事後評価について、丁寧な説明をいただきました。事業箇所である加須市の青毛堀川上流域は、昭和40年代後半から急速な都市化の進展により浸水被害が多発するようになった地域です。上流域の洪水調節と下流域の負担軽減を図る必要性が高まり、遊水池の整備に至っています。

昭和57年の台風18号では63戸の床上床下浸水の被害が発生しておりますが、暫定供用が開始された平成13年以降、同規模の豪雨があっても床上浸水が発生する被害は確認されていません。整備が進んだ遊水池に38回の流入実績が確認されるなど、大きな整備効果を発揮している事業です。

今回の講演で我々土木技術者が、県民の安心・安全の確保を図る一翼を大いに担っていることを高橋さんから改めて確認させていただく良い機会になったものと感じています。高橋さんありがとうございました。

今後も、会員皆様からの積極的な発表を期待しております。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、総会及び講演会の終了後、先生方を交えた懇親会を実施しました。参加者は61名でした。

平成25年度は、ぜひ皆さん声を掛け合って大勢の参加をお願いいたします。

○現地見学会 平成24年12月1日(土) (於) ハッ場ダム・群馬の自然史博物館

今年度は、毎年2月頃に実施している現地見学を12月上旬に日程変更し、群馬県吾妻郡長野原町にある「ハッ場ダム」、同県富岡市の「群馬県立自然史博物館」を見学しました。



①ハッ場ダム

ハッ場ダムは利根川の支流の一つである吾妻川において、利水、治水、発電を目的に国が建設を進めている多目的ダムです。このダムの建設事業には、東京都、埼玉県、千葉県、茨城県、栃木県、群馬県が参画し、事業費の一部を負担しています。また、利根川上流既設ダムの中で洪水調節容量が最大であり、既設ダム群全体の約6割に相当する治水能力を有する、効果の高い施設です。

ハッ場ダムでは、地域防災センター「やんば館」を見学しました。やんば館は、ハッ場ダムが持つ役割や現状と、水没予定地に住む住民の苦労などを広報する目的で、1999年4月30日に開館した広報センターであり、ハッ場ダム工事事務所が管理しています。また、建設の進む道路や代替地、長大橋などの土木施設をバスにて巡り、埼玉県ではあまり見られない巨大な土木構造物に、見学者一同が土木技術の偉大さを実感いたしました。その後、昼食は伊香保「時代屋」にて和定食に下鼓を打ちました。

②群馬県立自然史博物館

1996年10月22日に開館し、群馬県の自然史展示を中心に地球の文化・鉱物・ヒトや動物の進化に関する資料・標本・写真などを展示しています。カマラサウルスの実物骨格や実物大のティランノサウルスの動く模型、壮大なブナ林のジオラマは日本国内では貴重な展示品です。

展示室は思いのほか大きく、展示品の全てをじっくりと観察することはできなかったとは思いますが、普段では学ぶ機会の少ない自然史を見学し、技術者としての見識や知識の幅を広げられたものと考えています。

この見学会は、会員の技術の向上ばかりでなく、土木技術や技術者に対する理解を深めていただくことを目的として、会員の御家族や御友人にも参加を頂いております。

参加者は36名でした。御参加ありがとうございました。次回もよろしくお願いいたします。